

# 令和元年度事業報告【総括】

## ① 事業所別予算に対する実績

	平成 30 年度		令和元年度	
	予算達成率	稼働率	予算達成率	稼働率
特 養	99.6%	96.1%	102.7%	98.0%
ショート	94.7%	91.5%	96.9%	93.6%
デイサービス	94.9%	88.1%	100.9%	72.3%
居 宅	125.1%	延べ人数 511 人	113.3%	延べ人数 476 人
訪問看護			124.4%	総訪問回数 927 回
配 食			117.6%	総配達数 11,256 食
合 計	98.7%		102.4%	

## ② 運営

令和元年度は当初予算には僅かに届かなかったが、補正後の予算について達成した。考察として、特養及びショートステイで高い稼働率を維持しつつ、各在宅サービス及び配食サービスが予算を達成した。法人全体の介護保険収入は前年度と比較し 3,000 万以上の増収となり、当初の目的を概ね達成した。

令和元年 6 月には訪問看護ステーションを開設、多数の事業所との競争の中、断らないステーションとして事業を継続、徐々にではあるが利用者数を増やし、在宅での看取りにも対応した。そして、10 月 7 日に松江市大輪町の島根県営住宅松江大輪団地の敷地内に開設した在宅介護サービスの拠点である「くらしと地域を支えるカラフル大輪町」にデイサービス・訪問看護・居宅介護支援事業所を移転、各事業所名を「カラフル」に変更し、利用定員やスタッフを増として、機能強化及び事業規模の拡大を図ったことで、法人内における切れ目のないサービス提供は大きく前進し、顧客満足度を上げることができた。

各事業所について

### 【特別養護老人ホーム】

今期退所者は前年度より 10 名少ない 11 名、うち看取りが昨年より 8 名少ない 5 名となった。また、入所から次の入所まで前年度平均 16 日かかっていたが、本年度は平均 10 日に短縮できた。入退所者数が少なく、新規入所までの期間が短縮できたことなどが安定した高い稼働率の要因と考える。今後も、引き続き早期の入所に努めるとともに、感染症対策を万全に講じながら、利用者の「その人らしさ」を感じる生活の支援を行っていく。

## 【ショートステイ】

前年度から比較し、稼働率が上昇、令和元年度も 9 割台を達成した。空床利用は前年度 7 件から 34 件に大幅に増加し、特養と連携しつつ、的確に利用調整を実施できた。

また、他施設が断った利用者の受入、点滴・インスリンへの対応、夕方退所後の入所や、土曜・祝日も送迎に対応した。こうした取組が地域の利用ニーズにより応え、安定した稼働率を維持できた要因と考えられる。特養同様に 24 時間シートの導入や個別ケアの充実に向けて、今後も関係機関との連携を強化しながら、スタッフ一丸となって取り組む。

## 【デイサービス】

カラフル大輪町への移転に向けて、定員を 22 名→25 名→30 名と計画的に増やしていった。稼働率は前年度の 88.1%に対し、72.3%と低く見えるが、移転後は新たに日曜営業が始まり 365 日対応となったことが要因。

拠点が市内中心部に移転し、365 日営業で早朝から夜間までの延長利用と併せ、宿泊もできる機能に加えて、在宅生活の維持・自立支援に向けた取り組みとして、訪問リハビリと兼務の理学療法士及び作業療法士による、機能訓練（機能訓練加算Ⅱ）を開始、外部講師による指導を受けながら、その質や効率性を更に上げた。また、お料理倶楽部、音楽療法、創作活動など様々なプログラムを増やし、様々に多機能化したことで、顧客からは、充実したサービスを毎日利用でき、いざというときには、お泊り機能があって、安心して利用できるというお声もいただいております、確実に顧客満足度を上げたと感じている。

## 【居宅介護支援事業所】

1 名体制から 2 名体制となり、市内中心部である松江市大輪町に移転したことで、営業エリアがこれまでの松北エリアに加え、中央エリア、松南エリアまで広く網羅できるようになり、より多くの相談に対応できる体制が整った。ケアマネの交代により、前年度の月平均の請求件数が 33.1 人であったのに対し、令和元年度は 29.3 人と少なくなったが、優秀なスタッフが揃ったことで、利用者は徐々に増加傾向にある。

令和 2 年度には 3 名体制となり、各包括支援センター及び医療・介護事業との連携を強化しつつ、地域共生社会の実現に向けた地域課題解決のための取り組みに向けて、積極的に地域住民と関わりを持つ機会を設けていきたい。

## 【訪問看護ステーション】

6 月に開設、10 月に大輪町へ移転となる。24 時間 365 日「断らないステーション」として活動。事業所の礎を築く 1 年として、事業所の理念を共有しつつ、スタッフの資質向上に向けた多数の研修への積極的な参加など人材育成に努めた。また、関係機関には、事業所及び各スタッフのもつ強み（得意分野）を積極的にアピールしつつ、顔の見える関係づくりに努めた。

こうした取り組みの結果、実利用者数は開設月の 3 名から期末である 3 月の時点で 22 名まで増となった。今後は法人内外の各事業所との連携を更に深め、利用拡大に向け、看護・リハともにできることを増やしていく。

## 【配食サービス】

当法人の独自のサービスに併せ平成 30 年 9 月から松江市食の自立支援事業を受託。食事形態や治療食への対応、食事の温め等をニーズに応じて実施しつつ、両事業合わせ 1 日平均 30 食、年間 11,000 食を超える提供を 365 日体制で行った。

また、訪問時に浴槽内で意識消失している利用者を発見、救急対応及び 119 番通報や担当ケアマネ等への連絡を行い、安否確認を含めた“地域目”としての機能を果たした。

## 【法人本部】

### 理事会

- ①第 91 回 理事会 令和元年 5 月 31 日(金)
- ②第 92 回 理事会 令和元年 12 月 13 日(金)
- ③第 93 回 理事会 令和 2 年 3 月 31 日 (火) → 感染症対策により書面決議

### 監事監査

- ①監事監査 令和元年 5 月 24 日(金)

### 評議員会

- ①第 6 回 定時評議員会 令和元年 3 月 18 日(火)
  - ②第 7 回 臨時評議員会 令和元年 12 月 26 日(木)
  - ③第 8 回 臨時評議員会 令和 2 年 3 月 31 日(火) → 感染症対策により書面決議
- ※第 93 回理事会及び第 8 回評議員会を除き、特別養護老人ホーム明翔苑にて開催

### 各種登記手続き

滞りなく実施

## ③ 地域における公益的な取り組み

令和元年 1 2 月～翌年 2 月まで間、松江市介護人材確保検討会議がモデル事業として松江市内の中学校に出前授業を実施する「介護の基礎的講座」に福祉のお仕事コンシェルジュとして 5 名を登録し、鹿島中学校、松江第一中学校、島根大学教育学部附属義務教育学校へ派遣、講義と体験含め計 8 回を実施した。この他、地域福祉の発展に向けて、下記のとおり講師の派遣及び法人が所有する音響機材等を無料で提供し、関係機関及び地域住民との連携強化に努めた。また 3 月から 11 月の間、古江公民館の清掃ボランティアに参加した。

### ●出前講座・講師の派遣及び機材の提供

- 5 月 25 日 しまね 福祉・保育の就職フェア（出雲：約 100 名）
- 6 月 1 日 しまね 福祉・保育の就職フェア（松江：約 100 名）
- 6 月 17 日 島根県高等学校介護コンテスト（約 130 名）
- 6 月 19 日 西長江福祉推進員ミニデイ（27 名）
- 6 月 27 日 上講武寄合の会（25 名）
- 8 月 8 日 手話サークル古志原（視覚障害の方等 25 名）
- 11 月 17 日 ふくしたのしくなるひ（延べ 300 名）
- 1 月 16 日 なごみデイサービス（11 名）合わせ 4 回実施。
- 2 月 26 日 法吉公民館（約 50 名）社福みずうみさんと共同で実施

#### ④研究発表

11月9日に松江赤十字病院主催で開催された医療従事者スキルアップセミナーに管理施設ケアマネジャーより「排泄予知センサーを活用した排せつケア」について発表及びポスター展示を行った。エビデンスに基づく科学的介護の実践と業界内のICTの進展、導入の効果等について来場者に紹介した。

#### ⑤ 感染症対策

令和元年度はインフルエンザ等の感染症蔓延はなかった。しかし新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に際し、法人内では、対策に必要な情報収集及び対策の協議と周知、必要な資機材の整備等に多くの時間と経費を捻出した。利用者の生活、家族等との面会、職員の行動にも制限が入り、事業所内がゾーン分けされたことで職員間の業務分担が変わり、一部の職員がテレワークに移行したりなど、様々に環境変化が生じている。

地域の状況をモニタリングし、その都度、必要な体制を整備できるよう、対策マニュアルを随時更新しつつ、BCP（事業継続計画）に必要な対応を現場及び経営の双方で構築する必要性を感じている。

#### ⑥ 防災

火災や土砂災害等に関する定期訓練を実施しつつ、これまで震災編のみであったBCPを、火災・土砂災害・風水害・原子力・雪害や感染症といったあらゆる事態に対応可能とするBCPとするため、平成29年度よりBCP検討会を立ち上げ、継続的な協議により、令和元年6月に内容を一部再策定した。また、カラフル大輪町の開設に際し、新拠点用のマニュアル作成を順次検討しつつ、各拠点における、災害対策に必要な食料等の備蓄及び資機材の選定を進め、令和2年度に整備を行う。

原子力災害に関する避難訓練は例年通り実施。午前中に業者による陽圧化装置の定期点検及び取扱研修を実施し、午後より原子力災害への初動対応、施設の陽圧化（アララベンチの稼動・養生等）について訓練し、各自がマニュアルをもとに緊張感を持って取り組んだ。

#### ⑦ 苦情（0件）

令和元年度の苦情は、昨年度同様に全事業所を通じて0件であった。各スタッフがサービス向上へしっかり努めたこと、グループウェア等を活用し、情報の共有を重要視していることが、苦情ゼロへつながった要因のひとつであると考えられる。

しかし、表面化していない事案がある可能性や、転倒や転落、皮膚剥離、誤薬、公用車の接触事故等が発生した事実を真摯に受け止め、基本的業務である、報告・連絡・相談の徹底、接遇・倫理面の向上、各種業務マニュアルに基づく業務の標準化の徹底を通して、よりよいサービス提供に組織全体で取り組む。

#### ⑧ 地域交流

10月27日（日）に明翔苑祭りを開催、屋外にて和太鼓の演奏、ソーラン踊り、ジャグリング、プロレスの観覧、飲食物の販売などを企画し、利用者と家族、地域住民合わせ約150名が参加。良き交流の場となった。

また、古江幼稚園、古江小学校 6 年生を対象とした認知症サポーター養成講座や交流会、湖北中学校の職場体験学習、松江東高等学校の職場見学、松江農林高等学校の職場体験及び交流会、カラフル大輪町の公民管区である城北公民館祭りへの参加等を通じて、地域との世代間交流及び福祉教育の場として関係機関と連携して実施した。

以上